

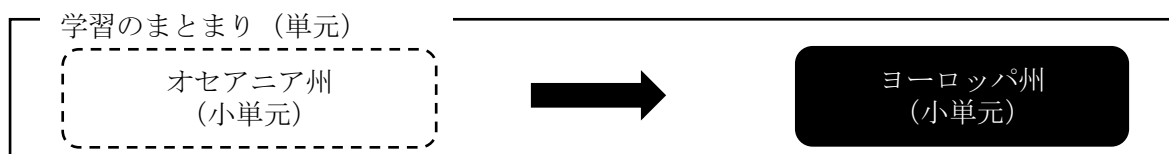
## 社会科地理的分野学習指導案

対 象 第1学年1組 32名  
学校名 東村山市立東村山第四中学校  
授業者 主任教諭 白澤 保典

### 1 単元

B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域 オセアニア州、ヨーロッパ州

「研究内容」で述べたとおり、地理専門委員会では「世界の諸地域」を4つの「学習のまとまり(単元)」に分けた。本単元では下の図のようにオセアニア州とヨーロッパ州という2つの小単元を合わせて「学習のまとまり(単元)」としている。なお、本指導案ではヨーロッパ州について中心に記載していく。



### 2 単元の目標 ※ (1)、(2) は小単元、(3) は単元を通しての目標

- (1) 地理的事象に関わる諸資料からヨーロッパ州の地域的特色を読み取り理解するとともに、EUとしてまとまることのメリットやデメリットを理解する。
- (2) EUとしてまとまることのメリットとデメリットを世界の国々が抱える課題と関連付け、世界の国々がヨーロッパ州から課題解決に向けて学ぶべきことを選択・判断する。
- (3) オセアニア州やヨーロッパ州が抱える多文化共生への課題を、様々な立場の違いを考えてよい方向に解決していこうと見通しをもって学習に取り組み、その成果を活かしながら改善を加えて、よりよい考えをつくらうとしている。

### 3 単元を貫く問い及び設定理由 (ヨーロッパ州)

貫く問い	「EUがヨーロッパの人々にもたらしたのから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか？」
設定理由	<p>本単元では地理的な見方・考え方を働かせながら、地域的特色を理解した上で、ヨーロッパがEUとしてまとまることの成果と課題について学習していく。そもそもヨーロッパの地域統合の動きは二度と戦火を起こさぬように「アルザス・ロレーヌ地方」を共同管理下に置くECS C (欧州石炭鉄鋼共同体) の創設から始まったものである。近年、国際競争が激しくなり、世界各地で新たな国家間の軋轢が生まれている情勢をみても、この「結成当初の目標」から世界中の人々が学ぶべきことは多い。</p> <p>また、地球環境問題や移民・難民問題等でヨーロッパが世界をけん引する事案が多くなっている。関連してSDGsも大きな広がりを見せ、国際社会にも大きな影響を与えている。このSDGsの17番目の目標に「パートナーシップで目標を達成しよう」があり、そのターゲットの一つに次の記述がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナー</div>

シップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

つまり、目標の達成のためには国を越えて知識、技術及び資金を集める必要があり、そのためには各国が歩み寄ってパートナーシップを確立することが求められている。ヨーロッパ州はこれを世界に先駆けて進めてきた地域である。学習指導要領にSDGsと関連した授業の導入も求められる中で、それをけん引しているEUの是非を問うことは矛盾しており、本單元では『EUの存続の是非』を問うような問いではなく、『EUありき』の問いをたてることとした。

その一方で、EUが大きな課題に直面していることも事実である。特にBREXITはEUの持続可能性を揺るがす衝撃的な出来事であった。それでもEUはイギリスとの協調関係を完全には崩さず、掲げている目標の達成のための歩みを止めてはいない。新しいことを進めていく中で困難に直面するのは当然のことである。このような課題に向き合うEUの姿勢も含めて、地理的な見方・考え方を働かせて地域的特色を考察した結果、見えてくるEUのメリット、デメリットから世界の人々が学ぶべきことを生徒に考えさせていく。

#### 4 この単元で「働かせる見方・考え方」

(1) 「分布」の見方・考え方を働かせ、狭い地域に国が多く見られることを確認する。また、「位置」の見方・考え方を働かせ、ヨーロッパが中緯度から高緯度に位置していることから、氷河地形が見られること、海流や偏西風に影響を受ける特徴的な気候が見られることなどにも気が付かせる。これらの知識を獲得した後に、「人間と自然環境の相互依存関係」の見方・考え方を働かせ、気候や地形と農業や林業との関係を見出し、各国の第一次産業の特色を理解する。さらに、「空間的相互依存作用」の見方・考え方を働かせ、自給率の低い農作物を補い合ったり、国境を越えて航空機を共同開発したりすることなどによって、EUならではの国同士の関係が成り立っていることを理解する。このような多くの地理的な見方・考え方を働かせた問いを毎時間立てることにより、ヨーロッパの地域的特色を地理的な視点から捉えさせていく。

(2) 本單元では後述する「EUカード」という教材を用い、本時の学習を振り返りながら、毎時間後にEUとしてまとまることのメリット、デメリットを確認していく。この学習によって地理的な事象を個々に捉えるだけでなく、「地域」の見方・考え方を働かせることになる。その結果、単元が進むにつれて様々な視点からEUのメリット、デメリットを見ていくことになり、地域的特色の理解が深まっていく。

#### 5 単元の評価規準（単元指導計画掲載の評価マトリクス）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
予測力 社会的事象についての意味や意義を諸資料から適切に読み取り分析・予測し、判断する力			

<p>対応力 社会的事象についての課題を発見・把握し、選択・判断、処理・解決する力</p>	<p>ヨーロッパの地域的特色を理解し、EUとしてまとまることのメリットやデメリットをヨーロッパの自然環境や第一次産業、工業の特色と関連付けるなど、地理的事象に関わる諸資料から、世界の諸地域の課題解決の方策に必要な情報を適切に読み取り、まとめている。</p>	<p>ヨーロッパ州の地域的特色を踏まえ、見出した地域の課題解決へ向けてのEUの取り組みを生かし、地球的課題の解決へ向けた方策を多面的・多角的に考察し、選択・判断している。</p>	
<p>共生力 異なる文化（国・地域）や世代間の違いなど多様な人々と交わり、受容し、共生する力</p>			<p>オセアニア州やヨーロッパ州が抱える多文化共生への課題を、様々な立場の違いを考えてよい方向に解決しよう、見通しをもって学習に取り組み、その成果を活かしながら改善を加えて、よりよい考えをつくろうとしている。</p>
<p>発信力 他者や社会に向けて発信者（個人・仲間・集団）が様々な手段・方法を用いて発信するための力</p>			

## 6 指導観

### (1) 単元観

学習指導要領解説（平成29年告示）社会編 地理的分野 B 世界の様々な地域「(2)世界の諸地域」（以下、学習指導要領とする）には次のように記載されている。

※下線、太字は授業者が加筆

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

このことから、前述のとおり、様々な地理的な見方・考え方を働かせる問いを立て、様々な資料から情報を読み取りながら、ヨーロッパの地域的特色を捉える学習を行っていく。

単元を構成するにあたって、高等学校「地理探求」の学習内容も参考にしながら、ヨーロッパ州の地域的特色や課題について整理を行った。それを構造化したものが次の図である。

## ヨーロッパ州の地域的特色

### 自然環境

- 大部分がユーラシア大陸（国が陸続き）
- 熱帯がない（中緯度から高緯度に位置している）
- 氷河地形
- 海流と偏西風による気候への影響（日本の同緯度地域との比較）
- 北海の資源
- 国際河川（日本の河川との違い、内陸国が多い中で重要な水路）

### 歴史・文化など

- キリスト教の影響が強い地域
- 類似した言語や文化
- 産業革命の発祥地
- 早い時期からの環境問題

### 産業

- 地域ごとに特徴的な農業
- 資源の分布
- 国境を越えた産業のつながり

これらを学習したことにより明らかになる地域的特色

- 他地域に比べて州全体の面積が小さい。その割に国の数が多い。（＝一つ一つの国の面積が小さい。）
- 多くの国々が陸続きとなっていて移動しやすい。
- キリスト教の影響が強く、言語や文化も比較的近い。
- 国土面積が小さいことにより、栽培できる農作物や得られる資源が限られている。

だから

- ◇EUとしてまとまることができる。
- ◇EUとしてまとまるメリットがある。

ヨーロッパ州を地理的な見方・考え方を働かせて捉えてみると、上記のような地域的特色が見られることが分かる。その中で他地域と比較したときに大きな特殊性として挙げられるのは、地域統合が進んでいることである。そして、EUとして地域統合をここまで進めることができたのはヨーロッパ州の地理的な特殊性が大きく関係している。そこで、本単元ではこの地域統合を主題として学習を行っていく。その設定の根拠となるのは学習指導要の次の記載事項である。

※下線、太字は授業者が加筆

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

(2) については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(イ) 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。このうち、地球的課題については、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標 (SDGs) などに示された課題のうちから、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などに関わる課題を取り上げることを意味している。

前述のとおり、EUが成立し、ここまで大きな広がりを見せたことにはヨーロッパ州の地理的な背景が大きく関係している。グローバル化が進展し続けて国際競争が激しくなり、新たな国家間の軋轢も生まれている上に、昨年からは新型コロナウイルス感染症による世界を巻き込んだ大混乱が起きている。このような現代社会において、自国のみで直面する課題を解決していくことは不可能であり、世界の国々が歩み寄り、協力して課題を解決する必要がある。しかし、それがすべての地域で、あるいは地球全体で十分に組み合わせているかと言えばそうではない。つまり、「地域統合」は地球的課題と位置付けることができ、EUは統合が最も進んだ地域であると言える。そこで、本単元ではこのEUの取組や考え方を他地域の課題解決のために関連付ける学習を行い、「EUがヨーロッパの人々にもたらしたものから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか？」という単元を貫く問いを設定した。

一方で、現在EUが多くの課題を抱えているのも事実である。第6時ではこのことについて取り上げ、EUとしてまとまることのデメリットについても確認させる。しかし、再び分裂してしまつては地域統合の当初の目的から大きく逸れることも説明し、難しい課題を抱えながらもEUは協調の歩みを止めていないことに気が付かせる。

そして第7時（本時）に単元を貫く問いに対する考察を行い、結論を考える。具体的には、学習してきたEUのメリット、デメリットをこれまで学習した地域（北アメリカ州、アフリカ州、南アメリカ州、オセアニア州）のそれぞれの課題と関連付け、課題解決のためにEUから学ぶべきことは何かを考えさせる。EUが抱える課題についてではなく、他地域が抱える課題にEUの取組を関連付けるという学習だが、この学習を行うことでEUのメリット・デメリットやその背景にあるヨーロッパの地域的特色に対する理解が深まることをねらいとしている。

## (2) 生徒観

本校は授業前に全員が着席し、落ち着いた雰囲気の中で授業の始まりを迎えることができている。学習に対しても非常に前向きで、「授業は真剣に取り組むもの」、「小テストやパフォーマンステスト、定期考査などに向けて自分自身で学習に取り組むこと」などを当たり前のこととして捉えている生徒が多い。第1学年についても同様で、1年生らしい活発な発言が飛び交う雰囲気をもちながらも、やるべき時にはしっかりと切り替えることができる。また、課題にも真剣に、前向きに向き合う生徒が多くなっている。

その第1学年の生徒に1学期末に社会の授業に関するアンケートを実施した。

「中学校に入る前に比べて世界の国々や地理的な事象について関心をもつようになりましたか？」という質問については9割以上の生徒が「関心をもつようになった」と答えており、意欲的に社会の授業に取り組む生徒が多いことが分かる。

ESDに関連する「地理の授業を通して持続可能な世界の実現に向けて考えや関心が深まりました

か？」という質問について、ほぼ全員が「深まった」と回答しており、これまでの地理的分野の学習でSDGs等との関連付けを行ってきた成果が出ているといえる。

このような成果がある一方で、学習内容からさらに発展させて地理的事象を捉え、探究的な学習を進めることがこれからの課題である。この課題を改善していくためにも本単元ではこれまで学習してきた内容と関連付ける学習を多く取り入れたり、持続可能な社会の実現に向けた取組の紹介を行ったりすることにより、生徒が主体的に学習に取り組み、深い学びとなるように導いていきたい。

### (3) 教材観

ヨーロッパ州という地域を少しでも身近に捉えさせるために、地域的特色を捉えていく第1時～第6時で動画を活用したり、生徒にとって身近な特産物や店舗を紹介したりするなどの工夫を行っていく。そのためにワークシートに多くの景観写真やグラフ等の資料を掲載すると共に、大型提示装置で視覚的に分かりやすく捉えさせる工夫も行う。また、モルワイデ図法の地図を用いて他地域と比べてヨーロッパ州の面積がいかにか小さいのかを確認させ、その中に数多くの国が陸続きで隣接していることに気が付かせる。この教材の工夫によってEUが成立する背景に地理的な要因があることを生徒に理解させ、単元全体でEUを中心とした学習を行っていく。

第7時のグループ学習では自分で考えた単元を貫く問いに対する答えを相互に指摘し合い、それを踏まえた上で結論を出すという方法をとる。この学習により、他者の考えや異なる考えを柔軟に受け止め、効果的に取り入れる力を育むことができる。

この第7時の学習を効果的に行うためにはこれまで学習してきた地域の課題とEUのメリット、デメリットを正確に把握する必要がある。諸地域の抱える課題については第1時に資料の読み取りを通して既習事項を復習させる。EUのメリット、デメリットについては第1時～第6時までそれぞれの地理的事象に関連したものを毎回確認する。これらを記入するワークシートは第1時に配布する（これを「EUカード」と呼ぶ）。諸地域の課題とEUのメリット、デメリットを同じワークシートの中にまとめていくことで、第7時の学習を行う前から生徒が自分自身でどの地域の課題にどのメリット、デメリットが結びつくかを考える機会を設けることをねらいとしている。そして、完成した「EUカード」を使って第7時の学習で本時の問いの結論を考え出していくことで単元を貫いた学習が実現すると考える。

## 7 単元指導計画と評価計画（全7時間）

※短縮版（学習内容と活動のみ）を掲載する。全体は別紙参照。

時	学習内容と活動	4つの力			
		予	対	共	発
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班員で協力して資料の読み取りを行い、諸地域が抱える課題を「EUカード」（※EUのメリットと諸地域の課題が記載されているプリント）に記入する。</li> <li>○ヨーロッパ州の宗教や言語の分布から、国同士の共通点を確認する。</li> <li>○地図帳の各国別のデータやモルワイデ図法の地図を用いて、アメリカ合衆国や中華人民共和国とヨーロッパ州の国々を比較し、面積の小ささや一国あたりの人口の少なさを確認する。</li> </ul>		●		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨーロッパの主要都市間の移動時間の資料や日本国内の主要都市間の移動時間の資料、フランス・ドイツの国境付近の地図、国境付近に住む人の証言（資料）から、ヨーロッパでは国境を越えての移動がしやすく便利なことを確認する。</li> <li>○NHK for Schoolの動画を見て、EUとしてまとまるメリットを理</li> </ul>			●	

	解し、ヨーロッパがEUとしてまとまることができた地理的な要因を考える。 ○本時の学習内容を振り返り、単元の問いの意図を把握する。				
3	○ヨーロッパの自然環境を地図帳で調べる学習を通して、その特色を大観する。 ○地中海やアルプス山脈、氷河地形などヨーロッパの特徴的な自然環境について諸資料を読み取る学習を通して理解する。 ○偏西風、北大西洋海流の与える影響について諸資料から読み取り、ヨーロッパの気候の特徴を理解する。		●		
4	○北欧の木材、地中海のレモン、フランスの小麦など各地の代表的な作物の栽培と自然環境との関係を資料から読み取る。 ○各国の農作物の自給率に関する資料などからヨーロッパの農業の地域間格差とその解決のための取組について考える。		●		
5	○ヨーロッパの工業分布に関する資料から現在のヨーロッパの工業の特色を捉え、ここに至るまでの経緯についても理解する。 ○早くから工業化が進んだ結果として進行してしまった環境問題への取組や分業で生産を行う航空機の製造などの事例からEUとしてまとまるメリットを考える。 ○EUが拡大した結果東欧からの労働移民が増えたり、工場が東欧に移転したりしていることを理解するとともに、そこからEUとしてまとまるメリットを考える。		●		
6	○EUが抱えている東西の経済格差やそれに伴う移民問題、抛出金の問題、難民の受け入れ問題等の課題をヨーロッパの地域的特色と関連付けて考察する。		●		
7	○これまでの学習内容を参考にしてEUから学ぶべきことは何か考える。 ○学ぶべきことを他地域でどう活かすことができるかを考える。 ○グループで自分の意見を発表し、より良い意見になるように互いに批評し合う。 ○変更点を修正し、最終案を記入する。		○	○	

## 8 身に付けさせたい「4つの力」との関係

前述のとおり、地球的課題の解決のためには世界の国々が協調していくことが必要である。そのために、過去の対立を反省し、現在は新しい課題を抱えながらも地域として協調する姿勢をとっているEUの取組は世界の国々が参考にできることが多い。このEUの取組をその他の地域が抱える課題と関連付け、解決へ向けた方策を多面的・多角的に考察することで「対応力」を育むことができる。また、この学習を行っていく中で、それぞれの地域の特徴を受容しつつ合意形成に向けて歩み寄ることの大切さを実感することができ、これが「共生力」の伸長につながっていくと考える。

## 9 本時（全7時間中の第7時）

### （1）目標

各地域がEUから学べることは何かを考える学習を通して、世界の諸地域が抱える課題をそれぞれの地域的特色を踏まえて、共生しながら解決する方策を多面的・多角的に考察する。

(2) 展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 3分	○本時の問いを確認するとともに、授業の予定を確認して、見通しをもって授業に臨む準備をする。	○前時までに単元で学習してきたことを簡単に振り返り、本時の予定を説明し、ヨーロッパの学習のまとめを行うことを理解させる。	
展開① 15分	EUがヨーロッパの人々にもたらしたものから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか？		
	○評価のポイントを読み、どのような考え方で問いに向かえばよいのかを理解する。  ○これまでのワークシート（特に前時に使用したもの）を振り返り、自分の考えをまとめて答える。	○評価のポイントを示し、生徒がこれまで学習してきたことを活用できるように促す。  ○単元を通して学習したEUのメリット、デメリットと諸地域の特色や課題をもう一度よく振り返るように説明する。	
展開② 15分	○4人班に分かれ、発表の準備をする。	○班に分かれるように指示を出し、意見交換の目的や方法について説明する。	
	班員で意見を指摘し合い、自分の意見をより良いものにしよう。		
	○1人ずつ自分の意見を発表する（2分）。発表後に質問や指摘を行う（2分）。 ※これをグループ全員分行う。	○タイマーで時間を区切り、スムーズに次の人の発表に移るように促す。 ○机間指導を行い、意見交換に戸惑いが見られる班には教師が入り、きっかけをつくる。	
まとめ 17分	班での議論を踏まえて、自分自身の意見を修正し、清書しよう。		
	○班員の意見を参考にして自分の最終的な意見を記入する。 ○指名された生徒が発表する。  ○教師の話聞き、ヨーロッパ州の学習について振り返る。	○自分の考えに固執せず、客観的に自分自身の考えを見つめ直すように説明する。  ○他の生徒の参考になるような意見を書いている生徒を事前に把握しておき、2～3名指名する。  ○まとめとして本時の学習を振り返り、この学習がヨーロッパ州の地域的特色の理解を深めたことを確認する。また、我々も他地域の取組から学ぶことで共に持続可能な社会をつくりあげていく必要性について説明する。	<b>思・主</b> ※枠外に記載 (ワークシート)



(3) 本時の評価

思考・判断・表現<対応力>

世界の諸地域が抱える課題の解決へ向けて、それぞれの地域の文化、価値観の違いを柔軟に受け止めながら、EUのメリットやデメリットを参考にしてよりよい地域の形成へ向けて考察し、対話や議論等を通して公正に選択・判断できている。

具体的な評価基準

評価のポイント（全体の流れで評価する）

I：EUの取り組みと、②世界の諸地域の諸課題を、ここまでの学習内容や諸資料から正確に表現している。

II：②の課題解決や特色の伸長へ向けて、有効だと考えられる①EUの取り組みを取り上げて関連付けている。

III：世界の諸地域がEUから学べると考えた①②の理由を、様々な視点からある程度具体的に表現している。

「B」・・・上記の3つのポイントを概ね満たしている。

「B+」・・・上記の3つのポイントを十分に満たしている。

「A」・・・「B」の基準を十分に満たしており、ポイントIIIが特に優れている。

「B-」・・・上記のポイントI・IIを概ね満たしている。

「C」・・・上記のポイントを2つ以上満たしていない。

主体的に学習取り組む態度<共生力>

「オセアニア州が持続可能な地域として発展し続けるためには多文化共生の課題をどのように解決していくべきか」、「EUがヨーロッパの人々にもたらしたのから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか」という単元を貫く問に対して粘り強く主体的に向き合い続け、オセアニア州での学習成果も生かしながらよりよい地域へ向けて合意形成を図るべく「振り返りシート」に改善を加えている。